

第2回伊藤長七研究フォーラムの開催

2回目となる『伊藤長七研究フォーラム』が「寒水・伊藤長七研究会」主催により、2019年3月16日東洋大学白山キャンパスで開かれた。「寒水・伊藤長七研究会」は小石川・清陵の卒業生有志で構成する伊藤長七研究会のことで、通称「寒水会」という。「寒水」は伊藤長七の“号”である。この研究会の発足は、2001（平成13）年、その年の当番幹事であった68回生が中心となって、「東京清陵会だより」12号に「伊藤長七の足跡を訪ねて」と題する特集記事を掲載したことに遡る。この探索によって、多くの卒業生には校歌の作詞者として認識されていなかった伊藤長七の、斬新な教育理念を唱え、「府

立五中」の初代校長に拔擢されるなど、偉大な教育者の実像が浮かび上がってきた。以来、府立五中（のちの小石川高、現・小石川中等教育学校）の紫友同窓会と諏中・清陵同窓会の繋がりが出来た。2002（平成14）年には矢崎秀彦氏（35回）の「寒水 伊藤長七伝」が刊行された。2007（平成19）年、伊藤家に保管されていた大量の資料が長野県立歴史館に寄託されたことを記念して、第1回のフォーラムが千曲市の県立歴史館で開かれた。

「寒水会」はその後、「現代教育観」（明治45年刊）、「小諸を去る辞」（明治34年刊）、その他論文、書簡類の読み解きを進めて来た。東洋大学の「高大連携プログラム」のご協力を得て、また、2018（平成30）年は小石川校の創立100周年にあたりその記念行事の一環としても位置付けられて、第2回フォーラム開催の運びとなった。参加者は全体で200名弱、そのうち清陵関係者は50名ほどご来場いただいた。

今回のフォーラムでは、基調講演、パ

ネル討論などの他、伊藤ひろこさん（長七・孫＝劇団民藝女優）の朗読、藤下隆水氏の琵琶歌・『嗚呼伊藤長七先生』演奏など多彩なプログラムが組まれた。小石川、清陵両校の校歌がともに伊藤長七作詞であることから、それぞれが校歌を披露交歓して幕を閉じた。

今回主催した「寒水会」の清陵側メンバーは、春山明哲（68回）、小林盛男（68回）、守矢早苗（67回）、米山勉男（63回）、小川勝嗣（59回）である。清陵同窓会本部ならびに東京清陵会のご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、今後は寒水会に多くの方、特に若い方の参加、応援を期待します。 小川勝嗣（59回生）



基調報告の春山明哲さん



パネル討論には守矢早苗さんが参加